

て、少子化対策と定住化対策を「奥多摩創造プロジェクト」に位置付け、重点的に、また、積極的に推進してまいりました。

この「奥多摩創造プロジェクト」では、活力ある地域づくりのため、少子化対策の推進として、出会い・暮らし、子育て・教育の分野を、また、住みたい方が住める町を築くため、定住化対策の推進として、仕事、住まいの分野を推進することとしております。

これらの対策は、過疎化による人口減少、少子高齢化が進む当町において、高齢化対策や地域コミュニティの活性化にもつながるものであり、高齢化率は49%と非常に高い状況が続く中、地域コミュニティが低下しつつある地域も見られる当町において、重点的に推進すべきと取組であると考えております。

このようなことから、ふれ愛サポートセンターによる交流の場やふれあいの場の提供、保育園保育料の全額助成、小・中学校給食費の全額助成、高校生までの医療費の全額助成、産後健康診査等費用の助成、また、入園・入学・進学等支援につきましては、平成30年度から高校等卒業時の支援も行うこととしており、これらの15項目に及ぶ子ども・子育て支援推進事業の推進や、若者定住応援補助金の推進等の支援を行うほか、分譲地の整備、数年来重点的に整備を進めている町営若者住宅、空家等活用促進事業交付金等により町へご寄付をいただいた物件を活用した若者定住応援住宅、いなか暮らし支援住宅等の整備を一体的に推進してまいりました。

これらの結果、当町の人口は平成8年以来、年

間平均150名ほどが減少を続けておりましたが、平成29年の一年を見ますと、マイナス37名であり、減少を続けてはおりますが、先ほどの平均減少数と比較いたしますと、大きな改善を見ることができました。また、転入・転出を要因といたします社会動態においては、150名の増となっていることから、町外からの転入数が転出数を大きく上回ったことが、改善に大きく寄与しているものと考えております。

町営若者住宅や若者定住応援住宅、いなか暮らし支援住宅、分譲地の整備等、各種の定住対策を行ったことによるUターン、イターンによる町外から町内への転入は、69世帯、189名であることから、これまで重点的に推進してまいりました事業の成果の一端がここに表れていると考えており

ます。

平成30年度においても、これまでの歩みを止めることなく、小丹波地内、南氷川地内の2か所で町営若者住宅の建設を進めるとともに、分譲地については、川井地内、小丹波地内、棚澤地内に整備を行います。また、所有者の皆様方からご寄付をいただいた空家を活用いたします若者定住応援住宅、いなか暮らし支援住宅については、5棟の入居者募集を行ってまいります。

平成30年度からの新規事業といたしましては、子育て応援住宅の整備を実施いたします。この子育て応援住宅は、43歳以下で中学生以下の子どもがいる子育て世代を対象とし、新築する住宅に2年間入居することで、住宅を譲与するというものです。

新しい取り組みを含め、

これらの定住対策と子育て支援を一体的に推進することで、この奥多摩町に住みたい、住み続けたいという思いを持っていただき、一人でも多くの方々がこの町で暮らせるよう、職員一人一人が、明確な目的意識をもって、「奥多摩創造プロジェクト」を一層推進してまいります。



▶わさびーと子ども達
く多くの子育て世代の
移住・定住を目指して